

いたばし支え合い会議（第１層協議体）

正式名称		板橋区助け合い・支え合いの地域づくり会議
現在の構成メンバー		全２０名 町会連合会、民生・児童委員協議会、シニアクラブ連合会、商店街連合会、東京都健康長寿医療センター、板橋区社会福祉法人施設等連絡会、介護サービス全事業者連絡会、いたばし総合ボランティアセンター、地域包括支援センター、福祉の森サロン、シルバー人材センター、社会福祉協議会、第２層生活支援コーディネーター、板橋区、第１層生活支援コーディネーター
役割		（１）第２層に対するトップダウン的な役割ではなく、第２層の動きを横断的かつ俯瞰した目線で捉え、第２層それぞれの動きを踏まえた活動を考える。 （２）主に第２層の各圏域の課題やニーズ、対応策などを情報交換（共有）し、その情報を活用すること（Ａ地域の情報をＢ地域に共有するなど）を含め、第１層として「できること」を考える。
第１回	日時	２０１６年７月１５日
	場所	情報処理センター７階勉強室
	主な内容	■日本の将来の姿、地域包括ケアシステム（板橋区版ＡＩＰ）の理解 ■生活支援体制整備事業（生活支援コーディネーター・協議体）の理解
第２回	日時	２０１６年９月６日
	場所	仲宿地域センターレクホール
	主な内容	■第１層協議体の運営方法等のあり方について意見交換 ・議事録は概要版を公開する、傍聴は認める。 ・傍聴規定などのルール作りを次回以降検討 ■第１層協議体の役割など次回の開催に向けた意見交換 ・第１層協議体の役割、座長等については次回以降検討
第３回	日時	２０１６年１１月２４日
	場所	仲宿地域センターレクホール
	主な内容	■都内他自治体の進捗状況の説明 ■生活支援体制整備事業の理解 ■第２層の現況確認 ■第１層協議体の運営方法等のあり方について意見交換（傍聴規程、座長、代理出席） ・傍聴規程及び座長を決定 ・基本的には構成メンバー本人が出るが、代理出席も可能とする。 （協議体のあり方がもう少し煮詰まってから再検討）
第４回	日時	２０１７年２月１日
	場所	グリーンホール６０１会議室
	主な内容	■第１層協議体の効果的な運用方法（幹事会、作業部会等） ・幹事会は適宜実施 ・作業部会は今後の協議体の動きに合わせて設置 ■協議体の通称・愛称 ・次回までの宿題とし、次回検討

		■第1層協議体ができること（全区的な周知を目的とした講演会等） ・次回以降に検討 ■第2層の現況確認 ■板橋区における総合事業の現況確認
第5回	日時	2017年7月24日
	場所	仲宿地域センターレクホール
	主な内容	■第1層の今までの流れ ■第2層の取組状況 ■協議体の別称名・略称名（通称名・愛称名） ・現在の「助け合い・支え合いの地域づくり会議」を正式名称とし、別称・略称名を「支え合い会議」とする。 ・第1層を「いたばし支え合い会議」、第2層を「支え合い会議●●（地区名）」とする。 ■第2層協議体の代表者（生活支援コーディネーター等）の参画 ・次回以降ブロック圏域で代表して第2層の生活支援コーディネーターが参画 ・現在3ブロック（4地域）で第2層生活支援コーディネーターが選出されているため、3人が参画する予定 ・全18地域で第2層生活支援コーディネーターが選出された場合は再度運用方法を検討 ■その他第2層の動きを踏まえた第1層協議体のあり方・できること ・第1層主催のフォーラムはもう少し第2層が立ち上がってからの開催を検討していく。
第6回	日時	2017年12月21日
	場所	情報処理センター7階勉強室
	主な内容	■新構成メンバーの紹介 ・第2層生活支援コーディネーターが配置されている地域ブロックの代表者3人が新たに参加 ■情報交換・情報共有 ①第2層の取組状況 ・第2層への支援状況（SC養成研修、研修会、連絡会など）や今後の予定について情報共有 ②第2層予算内訳 ・第2層の予算運用について情報共有 ・現在は立ち上げ直後の地域と継続運営している地域で予算運用の認識に差があるため、最終的な検討は全地域の立ち上げ後に行う。 ③板橋区社会福祉大会での事例発表報告 ・事例発表を行った第2層協議体の一つ桜川地域の取組内容について情報共有 ④第7期介護保険事業計画 中間報告における生活支援体制整備事業 ・第7期介護保険事業計画について情報共有 ■協議・意見交換 ・第1層も「協議体」として、広域の地域課題を検討していく場にしていく。

		・全地域立ち上げ後は、1地域だけで解決できないこと、他の第2層協議体にも関連するものが出てくるため、第1層はその部分を話し合い支援する場とする。 ・第2層SCの参加により、第2層の情報・第2層SCとしての実際の意見を聞く機会となった。 ・ブロック代表として、ブロック内地域の連携を図り、第1層で情報提供・収集をして、ブロックへ持ち帰りたい。また、ブロック内で出た課題の検討を提案したい。 ・第1層協議体構成メンバーは各団体の代表として、事業全体や第2層協議体の取り組み状況をそれぞれの団体へ持ち帰って、会員・メンバーへ情報提供、周知啓発する役割となる。 ・今後は多世代への発信方法の検討も必要
第7回	日時	2018年3月28日
	場所	仲宿地域センターレクホール
	主な内容	■情報交換・情報共有 ①第2層協議体連絡会の報告 ・3/14に行われた第2層協議体連絡会について情報共有 ②生活支援体制整備事業 今後の予定（平成30年度重点項目） ・第2層協議体立ち上げ支援（5地域）、第2層協議体運営支援（SC未選出地域）、第2層協議体活動支援（SC研修・連絡会等開催、広報啓発活動）等について情報共有 ③第2層協議体予算内訳 ・平成30年度においては総額は変わらずに、SC活動費（活動報酬・月払い）、第2層協議体運営費・事業費（概算払い）に分類する。 ・SC活動費に関しては流用可能（諸要件あり） ■協議・意見交換 ①第2層協議体連絡会について（参加者の感想） ・各地域の報告を聞き、先行地域の取り組みが非常に参考になるなど、横のつながり、情報共有の重要性を再認識した。 ・各地域が積極的に意見交換しており、各地域で第2層協議体が盛り上がっていることを実感できた。 ・第1層協議体として、今後の協力・支援方法を検討 ②第1層協議体の今後の取り組みについての提案 ・第2層協議体からの課題の集約・検討 ・各団体からの情報提供と発信・蓄積方法の検討（インターネット等の活用） ・構成メンバーの所属団体内での協議体の情報共有・周知・連携を進める。 ・第2層協議体への支援方法の具体的な検討 ・第1層構成メンバーの研修として、他自治体への視察・情報交換の機会を持つ ・多世代への周知、啓発 ・福祉に関する地域や行政の情報の整理 など ③その他提案 ・ブロック連絡会の開催

第8回	日時	2018年8月30日
	場所	情報処理センター7階勉強室
	主な内容	■構成員の委嘱 ・構成員の任期が新しくなるため、委嘱式を行った。 ・任期は平成32年3月31日まで ■情報交換・情報共有 ①第1層協議体の方向性等について ・第2層協議体がスムーズに進むよう、できる範囲で協力体制をとる。 ・第1層協議体の構成員は第2層協議体に参加し、必要に応じて協力する（オブザーバー形式）。 ・第2層協議体でブロック毎の会議を行うべきという意見があった。 ・全地域で第2層協議体が立ち上がった後に開催を検討 ②第2層協議体での取組状況報告について ・桜川：3グループに分かれて活動 - 地域の老人クラブの紹介チラシの配布、サロンチラシの作成、お散歩マップの作成等を行っている。 ・高島平：高島平シニアガイドを作成する過程で、地域の方々と交流する機会があったり、サロン立上げの相談をされたりした。 ・仲宿：各町会の役員会に支え合い会議のことを周知している。 - 今後は地域住民に向けたマップ等を作成する予定 ③その他 ・第2層協議体の実費弁償について協議
第9回	日時	2019年2月25日
	場所	情報処理センター7階勉強室
	主な内容	■前回会議からの進捗状況 ■第2層協議体各地域の取組内容 ・周知やPRの結果、地域活動の参加者や協力者が増えている地域がある。 ・男性の社会参加促進のため、お散歩マップ、地域資源マップを作成している地域がある。 ・各地域団体でも、男性に向けて年末の防火防災パトロールや囲碁・将棋倶楽部等への参加を働きかけている。 ■第2層支援計画について ・会議の進め方、事業の基礎知識、活動実践事例等の研修内容を検討 ■板橋区版事業ガイドブックについて ・事業理解を高めるためガイドブックを作成 ・東京都健康長寿医療センター研究所の藤原先生に協力要請 ■協議・意見交換 ・第2層協議体連絡会の時間が足りなかったため、ブロック単位での開催を検討していくこととする。 ■第2層協議体での取組状況報告について ①上板橋ブロック（桜川）：地域に支え合い会議のことが浸透していないため、今後

		は周知・PRを強化していく。 ②板橋ブロック（仲宿）：男性の社会参加のため、お散歩マップ、地域資源マップを作成中 ③志村ブロック（高島平）：広報誌を作成しただけではなく、作成した後にどのような取り組みを行うかが重要
第10回	日時	2019年9月30日
	場所	情報処理センター7階勉強室
	主な内容	■構成員の委嘱 ・委託先の変更に伴い、いたばし総合ボランティアセンター所長を新たな構成員として委嘱 ■前回会議からの進捗状況 ■第2層協議体各地域の取組内容 ・様々な地域で広報誌等による周知、地域資源マップの配布などの活動が広がってきている。 ・高齢者と子どもの関わりをつくる活動を行った地域もあった。 ■第2層支援計画の進捗及び報告について ・研修会で全国社会福祉協議会の後藤氏に講師を依頼し、地域共生社会についての講演を実施 ・フォローアップ研修として、協議体運営時のルールとなる「全員が納得する合意形成」について、NPO法人れんげ舎の長田先生による研修を実施 ・SCとリハビリテーション専門職の連携を深める目的で、「SC×リハ職合同大会」を実施する予定 ・第2層協議体の連絡会は令和元年度より4つのブロック別を実施 ■「板橋区支え合い会議（第2層協議体）取組みガイドブック」の作成について ・各地区のブロック代表の第2層SCや東京都健康長寿医療センター研究所の藤原先生に制作協力をしていただいた、「支え合い会議取組みガイドブック」が完成した。 ・事業内容に加えて会議の特性や進め方についても掲載している。 ■協議・意見交換 ・第1層メンバーの得意分野を活かし、連携しながら第2層協議体を支援したい。 ・参加、協力しているメンバーが第2層協議体だけでなく、地域の様々な団体・活動と横につながること、地域の担い手不足の解消につなげたい。 ・区内部での支え合い会議の認知度がまだ低い、今まで以上に区内部での認知度が上がるように努めていきたい。 ・協議体という基盤をもとに、生活支援と介護予防を切り離さず、一体的に取り組むこと、専門職がもっと参画することが必要と考える。 ・今後の協議体の発展には、ボランティア団体と住民を繋げる役割も重要だと考える。
第11回	日時	2020年3月3日
	場所	板橋区役所2階人材育成センター
	主な内容	新型コロナウイルス感染症拡大により中止

第 1 2 回	日時	2 0 2 0 年 6 月 2 6 日
	場所	新型コロナウイルス感染症拡大により 書面開催
	主な内容	■ 前回会議からの主な進捗状況 ■ 各地域の取組状況 ■ 令和 2 年度事業計画
第 1 3 回	日時	2 0 2 0 年 1 2 月 2 2 日
	場所	仲宿地域センターレクホール
	主な内容	■ 前回会議からの主な進捗状況 ■ 第 2 層協議体の現状と課題及び支え合い活動の創出に向けた今後の方向性 ・ 支え合い会議での協議が成熟していくことで、実際の取組の課題も現れてきた。 ・ 今後は支え合い会議の活動の方向性、ゴールを明確にすることが必要である。 ・ 様々な事業との連携によって、支え合い会議の取組を具体化できるのではないかな。 ・ 支え合い会議の取組と介護保険サービスへの連動を検討していきたい。 ・ 比較的元気な高齢者に向けて、地域活動への意識を高め、地域に出ていく仕組みづくりを担っていきたい。 ■ 協議・意見交換 ・ 会議の開催中止も続き、計画の変更を余儀なくされた。 ・ 地域の高齢者アンケートは調査方法を見直して実施することができた。 ・ 協議体や S C 会議を Z o o m 等のオンラインで開催するなど、協議の場を維持できるように工夫している。 ・ 構成員からは各団体や地域の課題が報告されているため、今後は課題に対する具体的な取り組みを検討していきたい。 ・ メンバーが情報を持ち寄り地域資源カードの作成を進めており、今後は高齢者に情報を届ける仕組みを作っていきたい。 ・ 地域をよく知る S C と所属団体との連携を深めていきたい。 ・ 老人クラブとしてこれまで培ってきたノウハウを相互に伝達し合うため、各地域の第 2 層協議体への積極的な参加を進めていきたい。 ・ 地域で気になる高齢者に気づいた時に、支え合い会議から専門職へつなぐ仕組みができるとよい。 ・ 各分野の法人が集まる社福連と支え合い会議とがつながると分野を超えた専門職との連携や相談などの連絡体制が構築できる。
第 1 4 回	日時	2 0 2 1 年 4 月 1 4 日
	場所	板橋区立グリーンホール 2 階ホール
	主な内容	■ 研修「地域共生社会と地域包括ケアシステム」 ■ 第 1 層・2 層協議体構成員交流会
第 1 5 回	日時	2 0 2 2 年 3 月 2 9 日
	場所	板橋区立グリーンホール 2 階ホール
	主な内容	■ 令和 3 年度支え合い会議の取組みについて（進捗報告） ■ 第 2 層協議体の課題と今年度の成果 ・ 支え合い会議での協議が成熟する中で、具体的な支え合い活動を創出する地域が出てきている。

		・業間の連携や協議をさらに進め、新たな活動創出を推進していく。 ・第1層構成員の所属団体や所管課との連携強化を進める。 ・異分野の企業・団体や高齢者を中心とした多世代の参画を進めていく。 ・地域の情報が集まる第2層SC拠点を確保する。 ■令和4年度事業計画 ・第2層SCの感じている課題や想いを直接企画に反映し、地域住民のアイデアや視点を生かす研修等を計画している。 ・第2層SC研修や連絡会を通じて、ブロックや第2層圏域のネットワークを強化し、SCの課題解決力向上をめざす。 ■協議・意見交換 ・支え合い会議活動の創出に向けた協力者の拡大に向け、板橋区と企業との連携協定に基づき、地域づくりや見守りについて連携を進めていく。 ・町会・自治会や民生・児童委員等の地域団体との連携を深めていく中で、地域活動における第2層協議体の位置づけや役割を明確にしたい。 ・第2層協議体の取組みの周知が充分でないと感じるため、参画してもらええる仕掛けやきっかけづくりをしていく。
第16回	日時	2022年7月8日
	場所	板橋地域センターレクホール
	主な内容	■構成員の委嘱 ・令和3年度末の構成員任期満了に伴い、令和4年度構成員の委嘱式を行った。 ・任期は令和6年3月31日まで ■事業概要説明 ■第1層協議体の方向性 ・今年度の重点的取組みとして、事業間の連携や協議をさらに進め、新たな活動創出を推進していく他、異なる分野の企業や団体を中心に多世代の参画を進めていく。 ■活動マニュアル作成報告 ・支え合い会議における活動創出のための段取りや心構えを明記したマニュアルを作成した。 ・「見守り活動」「社会参加・生きがいくづくり」「居場所・サロンづくり」「助け合い活動」の4つの観点から活動例を記載している。 ■第1層協議体主催のセミナー開催 ・支え合いの活動創出等に必要な担い手確保のため、第1層構成員の所属団体のネットワークを生かし、地域活動者への事業理解・周知を目的とした「地域づくりセミナー」の開催を予定している。 ■協議・意見交換 ・第1層協議体として何をしていくのかが課題である。 ・第1層協議体が活動することで様々な団体に支え合い会議という活動を理解してもらい、共同関係ができることが理想である。 ・第2層協議体SC連絡会では町会や老人クラブ等、関係団体の支え合い会議への理解度が低いという声が聞かれた。 ・地域の高齢者や行政だけでなく、多世代も巻き込んだ取組みが必要と感じる。

第 1 7 回	日時	2 0 2 2 年 1 0 月 1 3 日
	場所	板橋区役所 災害対策室 A B
	主な内容	■事業説明 (1) 事業概要説明 (2) 各地域の取組状況一覧及び第 2 層協議体課題まとめの説明 ・「事業理解・周知の不足、担い手不足、活動スペースの不足」の 3 つの課題について事務局より説明がなされた。 ・第 2 層生活支援コーディネーターの未配置地域について委員より質問が挙がり暫定で第 1 層生活支援コーディネーターが運営していることが報告された。 ・第 2 層協議体の構成に関して、構成員や生活支援コーディネーターの所属と人数を表示することで第 1 層協議体において各地域の具体的な課題について協議できるとの提案があった。 ■第 1 層協議体主催「地域づくりセミナー」について (1) 概要説明 ・構成員全体で 500 名程度が支え合い会議に関わっているが、より多くの人にこの取り組みを理解してもらうため、地域づくりセミナーを開催する。 ・第 1 層が主催で主体的に企画し、参加者の動員をすることが求められる。 (2) 周知等で協力できることについて各構成員より共有 ・各団体における事務局を通した動員、委員・役員・会員等への周知、会議等での説明、郵送物への同封等の案が出された。 (3) 内容の協議 ①目的・対象 ・目的やタイトルを明確にし、参加対象者を絞り込む必要がある。 ・動員は、1 地区何名と具体的な人数を示してもらいたい。 ➡代表者の変更や民生委員・児童委員の改選等を踏まえ各組織・団体の代表者及び、地域で関心のある方を参加対象とする。 ➡構成員より、「担い手づくり」をテーマとしたセミナーを次回企画してはどうかと提案があった。 ②講演内容 ・行政説明の内容に関して、国の事業概要だけでは十分に伝わらないため、板橋区における協議体の仕組みを説明する。 ・取組み報告として、第 2 層協議体 18 地域の代表者が登壇し報告する。 ・その他、板橋区役所で開催したパネル展示の内容を冊子にまとめ地域づくりセミナーの配布資料とする。 ➡国の説明や資料は、非常にわかりづらいため、支え合い活動が大切だということが伝わる内容に示してもらいたい。 ③今後について ・協議内容を踏まえ、地域づくりセミナーのチラシを作成し、周知を各組織・団体で進めていくこととした。 ■所属団体における支え合いの取組みについて ・時間の都合上、次回以降、情報共有していく。

第18回	日時	2023年4月11日
	場所	板橋区役所 災害対策室A B
	主な内容	■報告事項 (1) 令和5年度生活支援体制整備事業 事業計画 (2) 支え合い・助け合いの地域づくりセミナー 振り返り (3) 第2層 SC 連絡会報告 ・若い世代の担い手不足と、事業の周知不足が大きな課題として挙げられた。 ・この事業の対象は高齢者ではあるが、子育て団体等が部分的に協力してくれた事例が報告された。 ・様々な世代や立場の方に参加してもらうため、どのように工夫ができるか意見交換があった。 ・固定した場所の確保が難しいという2層の SC の意見から、図書館や都営住宅集会所を利用した事例が報告された。 ・区内介護事業所の営業時間外の場所の提供について働きかけができるとの提案があった。 ・営利目的でない団体に施設の貸出が検討できると提案があった。 ■第2回「地域づくりセミナー」について (1) 開催日時・場所 令和6年2月6日(火) 14時から16時・文化会館大ホール (2) 意見交換 ①参加者について ・案内については、申込みの段階で参加人数および対象者の割当てはせず、多くの参加を募るのがよい。地域住民からも同意見が出ている。 ②開催時間、対象者、テーマについて ・事業説明は重要だが、活動やアクションなどの実践的な部分に焦点を当てる必要がある。 ・テーマごとに2部構成に分けるのもよい。 ・テーマは大枠ではなく、明確なものにするとターゲットを絞りやすい。 ・ターゲットにより、時間帯や場所、内容を変える。 ・日中は高齢者が参加できるが、学生は夜間の方が参加しやすい。 ・若い世代の人材を探すのであれば、学校や保育園の保護者に声をかけるとよい。 ・集客を考えると、多くの方に興味を持ってもらえる講師を招くのがよい。 ・テーマをしっかりと決めた上で依頼することが重要(ただし、事業の範囲を超えないことと、費用対効果を担保すること。謝礼については区と社協で相談) ・人を集めるのは大切だが、本質がぶれてはいけない。(少しずつ発展させていく) ③周知方法について ・広く周知させるためには、全世代への周知させるための工夫が必要である。 ・ターゲットにより発信するメディアを変える。区報、HP、SNS等を活用する。 ■今後について ・地域に広く支え合い会議の目的を理解してもらいたい。

		・構成メンバーの所属団体と第2層協議体が相互理解を深め、地域にとっても、所属団体にとってもメリットとなるよう働きかけ、win-win な支え合い活動を展開していく。 ・支え合い会議の周知のためには、セミナーを継続していくことは大切である（ただし、同様の形式ではなく、状況に応じて形を変える必要もある）。 ・第1層協議体はビジョンを描き、各団体が個別に実施していること連携させることで地域の発展をめざしていく。
第19回	日時	2023年10月31日（火）
	場所	グリーンホール 601会議室
	主な内容	<u>報告事項</u> （1）令和5年度生活支援体制整備事業 事業計画 （2）支え合い・助け合いの地域づくりセミナー 振り返り （3）第2層 SC 連絡会報告 ・若い世代の担い手不足と、事業の周知不足が大きな課題として挙げられた。 ・この事業の対象は高齢者ではあるが、子育て団体等が部分的に協力してくれた事例が報告された。様々な世代や立場の方に参加してもらうため、どのように工夫ができるか意見交換があった。 ・固定した場所の確保が難しいという2層の SC の意見から、図書館や都営住宅集会所を利用した事例が報告された。また、全事連からは、区内介護事業所の営業時間外の場所の提供について働きかけができるとの提案があった。社福連では営利目的でない団体に施設の貸出が検討できると提案があった。 <u>第2回「地域づくりセミナー」について</u> （1）開催日時・場所 令和6年2月6日（火）文化会館大ホール 午前・午後予約済 （2）意見交換 【参加者について】 ・案内については、申込みの段階で参加人数および対象者の割当てはせず、多くの参加を募るのがよい。地域住民からも同意見が出ている。 【開催時間、対象者、テーマについて】 ・事業説明は重要だが、活動やアクションなどの実践的な部分に焦点を当てる必要もある。 ・テーマごとに2部構成に分けるのもよい。テーマは大枠ではなく、明確なものにするとターゲットを絞りやすい。また、ターゲットにより、時間帯や場所、内容を変える。日中は高齢者が参加できるが、学生は夜間の方が参加しやすい。 ・若い世代の人材を探すのであれば、学校や保育園の保護者に声をかけるとよい。 ・集客を考えると、多くの方に興味を持ってもらえる講師を招くのがよい。テーマをしっかりと決めた上で依頼することが重要。ただし、事業の範囲を超えないことと、費用対効果を担保すること。謝礼については区と社協で相談をする。 ・人を集めるのは大切だが、本質がぶれてはいけない。少しずつ発展させていく。 【周知方法について】

		・広く周知させるためには、全世代への周知させるための工夫が必要である。 ・ターゲットにより発信するメディアを変える。区報、HP、SNS 等を活用する。 (3) 今後について ・地域に広く支え合い会議の目的を理解してもらいたい。構成メンバーの所属団体と第2層協議体が相互理解を深め、地域にとっても、所属団体にとってもメリットとなるよう働きかけ、win-win な支え合い活動を展開していく。 ・支え合い会議の周知のためには、セミナーを継続していくことは大切。ただし、同様の形式ではなく、状況に応じて形を変える必要もある。 ・第1層協議体はビジョンを描き、各団体が個別に実施していること連携させることで地域の発展をめざしていく。
第20回	日時	2024年7月16日
	場所	板橋区役所 南館4階 災害対策室 AB
	主な内容	報告事項 (1) 令和5年度板橋区生活支援体制整備事業報告 (2) 令和6年度研修計画 (3) 第2回助け合い・支え合いの地域づくりセミナー振り返り 協議事項 (1) 第3回助け合い・支え合いの地域づくりセミナーについて ①開催日時・場所 令和7年3月4日(火)14時開会 文化会館 大ホール ②意見交換 ・支え合い会議という「協議の場」を活用していくため、協力者や担い手を集めるためのアピールが第1層協議体には求められている。 ・セミナーの集客にあたり、福祉に関連があったり、意欲的に活動したりしている有名人を呼んで講演をしてもらうのもよい。 →集客は目標であり、事業の理解促進が目的。地域住民の学びの機会や参画のきっかけとしてセミナーを活用していく。 →メインターゲットの選定が重要。今後、第2層協議体の活動に参加してくれそうな方をターゲットにしたい。 →企業のネットワークを生かして、講師の紹介や協賛金の提供により地域貢献してもらうことを検討してもよい。企業をどう巻き込んでいくか。 ・シンポジウムについては、前回は振り返って改善が必要である。パネリストの発言を主軸に置く。 ・チラシやポスターの文字が小さく、情報量が多いため改善を図るべきである。 →構成メンバーに必ず事前にご確認いただき、意見を頂戴する。 ・第2回セミナー後に問合せをいただき、第2層協議体の活動に参加している住民や企業の実績もある。協力者や担い手の確保は本事業の重要な課題であり、昨年度に引き続きセミナーを通して新たな参画者を見つけていきたい。 →第3回セミナーは概ね企画案通りとする。第1部は第2層協議体の実践報告(2地域程度)を実施し、第2部で日本社会事業大学の菱沼教授より、支え合い会議の役割

		について講演いただく。 (2) その他 ・企業等とパートナーシップを結ぶにあたり、相手にどんなメリットがあるか、そのためにどうつながっていくかを考えていく必要がある。 ・事業の目的達成について効果測定はしているか。 →地域の満足度を定数定量的に評価することは難しい。目的を達成するための目標について、引き続き検討していく。 ・第2層協議体の予算執行率が低いことは。 →地域の実情に合わせ、必要な支出をしている。費用対効果より、住民主体の事業として継続していくことを優先している。
第21回	日時	2024年12月16日
	場所	南館2階 人材育成センター
	主な内容	【協議事項】 【第3回助け合い・支え合いの地域づくりセミナーについて】 事務局よりセミナー企画(案)ならびに2地域の実践報告(案)を説明。 ・協力者獲得というテーマは良い。第2層は担い手不足であり、多くの人にこの事業を知って参画してもらいたい。 ・今後、高齢者だけで地域が回っていくのか。板橋区には福祉系の大学もあり、関心のある学生も多いのではないかと。若い世代を巻き込んでいくためには、セミナーの開催方法に配慮が必要。 ・企業等の在勤者も担い手として連携していくことが必要。若い世代が中心となって活動している団体へのアプローチも良い。 ・タイトルやチラシデザインを工夫して、多くの人に届ける工夫をしていく。 【情報提供】 【企業連携について】 (1) 企業による「食」を通じた地域貢献 ・多くの企業からご支援をいただいている「食」を通じて、地域貢献活動ネットワークを立ち上げる予定である。 ・「地域住民等の見守り・地域づくりに関する協定」は、10社の企業と締結している。支え合い会議においても連携を進めていきたい。 ・企業の力や視点を活用し、地域をデザインしていくことが必要になってくる。 (2) 「地域資源を発見してみよう!!」研修報告 ・第2層SC企画として実施した企業・団体紹介の研修は、第2層協議体メンバーから大変好評であった。出前講座以外の連携方法を探している企業もあり、今後も丁寧にマッチングを推進していきたい。 ・企業ができることをデータベース化し、各地域に情報提供できるとよい。 ・企業側にもメリットがなくてはいけない。各種資料等に企業名を掲載したり、企業にとって有益な住民アンケートを実施したりするなどの工夫をしていく。

		【今後についての課題と共有】 ・第1層協議体として重点的に取り組むことは地域共生社会の実現だと思う。住民だけでなく、学校や企業も巻き込み、あらゆる人に我が事としてとらえてもらいたい。 ・板橋区には意欲がある様々なサポーターがいて事業がある。生活支援体制整備事業は単独で進めてきたところがあるが、今後は新たな協働の方法によって負担を減らし、事業を発展させていきたい。 ・企業からは地域課題はなにかと聞かれることが多い。地域情報と企業情報の両方を蓄積してマッチングすることで、事例や取組みを重ねていくことが重要。 ・協力者募集をする際には、窓口を明確にすることが重要である。様々な切り口で案内をしていく。 ・第1層協議体は帰着点を定めることができないが、目標を絞って協議を進めていくことが重要。
第22回	日時	2025年6月26日
	場所	グリーンホール 1階ホール
	主な目的	○報告事項 (1) 令和6年度板橋区生活支援体制整備事業報告 (2) 令和7年度事業計画・研修計画 (3) 第3回助け合い・支え合いの地域づくりセミナー振り返り ○協議事項 【第4回助け合い・支え合いの地域づくりセミナーについて】 事務局よりセミナー企画(案)ならびに実践報告(案)を説明。 ・今年は民生児童委員の改選もあるため事業説明を丁寧にしていきたい。 ・生活支援体制整備事業と3つの関連事業（スポット、ジョブボラ、地域福祉コーディネーター）の事業説明と、第2層協議体の実践報告を実施したい。 ・「多様な主体が連携し合い、誰一人取り残さない地域づくり」を目指すうえで「支え合い会議」が基盤となり、3つの事業はあくまでも支え合い会議で見つけた「やりたい」をかなえるための手段である。 ・専門職をはじめ、日中就労している層は日中開催のセミナーへの参加は難しいため、開催日時の見直しが必要ではないか。 →区としてこの事業は大切な事業であると認識しており、今回は区長に参加してもらええる日程を最優先とした。 →日程と会場について承認。 ・専門職や在勤者などは日中の時間帯の参加が難しいため、Zoom等を用いたハイブリット開催を検討できないか。 →予算の兼ね合いがある。アーカイブ配信等については現状難しい。 ・これまで参加者アンケートを実施してこなかった。参加者の年代や参加のきっかけ等を確認していけば改善点が見つかるのではないか。 →手元の暗いホールでのアンケート記載は難しいため、二次元コードも活用する。 ・ロビー展示はこれまで実施してきたが、支え合い会議のメンバー自ら説明の機会を

		設けられればいいのではないか。 →これまで社協職員のみで実施してきたが、2 層メンバー自ら説明できると参加者への直接的なアピールができるため、2 層 SC に提案していきたい。 ・どんなセミナーを開催する必要があるか、現場の声を聞くために第 2 層 SC から意見を聞いてほしい。 →後日 2 層 SC 連絡会を開催し、意見集約の機会を設ける。 ・構成員全員に出席してもらっての対面型の第 1 層協議体は、年二回開催が限度であると考えている。昨年もチラシの確認依頼等、第 1 層構成員からの意見集約の機会を設けたため、今年度もそのような機会を考えていきたい。 ○事務連絡 (1) いたばし地域づくり情報誌 (第 17 号) We♡カラフルいたばし
--	--	--